

令和7年度 学校評価書

教育目標：個性を伸ばし、創造力を豊かにして、共に生きる社会に貢献する人間を目指す 「進取」「自律」「融和」

1 学力向上と学習指導の充実（教務情報課）

十分に達成した (A) やや達成した (B) 少々達成できなかった (C) 達成できなかった (D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
<p>(1) 現行教育課程を円滑に運用するとともに、授業改善と観点別評価による指導と評価の一体化を図る。</p>	<p>① 正確に科目選択および成績処理が行われるよう点検を徹底する。授業研究週間を通じて授業改善や評価の在り方を研究する。 ② 面談週間の実施と学習時間調査を実施する。 ③ 「高校生のための学びの基礎診断」を積極的に活用し、生徒の学習習慣や学力の現状を把握して学習習慣の定着を図る。</p>	<p>① 授業研究週間をベースに置きながら、普段から、教科内あるいは教科を超えて、観点別評価による指導について研鑽をすすめる。 ② 目安の学習時間を設定し、学習時間調査による達成度をチェックする。また、前年度の差異も捉える。 ③ 学びの基礎診断を教員、生徒にフィードバックするとともに経年比較を行う。</p>	<p>① 正確な科目選択、成績処理については、複数の視点でチェックしながらスムーズに進んだ。観点別の評価については全年次とも、3つの観点による評価を通して生徒の学習状況を捉え、節目ごとに生徒へ学習の指針をフィードバックしていただいた。 ② 丁寧に面談を実施いただいた。学習時間調査の結果として、1年次は一人当たり約40分/日、2年次は進路志望に対する各自の学習時間がまだ足りていない。3年次は各自の進路もほぼ決定し、前回と比べ家庭学習の時間や取り組みの伸びはあまり見られなかった。前年度と比較し、同程度の学習時間であった。 ③ 「高校生のための学びの基礎診断」を春と夏に実施した。実施結果の絶対評価は共有できるが、某業者のような相対的あるいは経年、個人間の推移がなく、分析の進度や活用に難があり、思うように活用できていない。 ④ 教育課程検討委員会を起点に、令和8年度入学生の教育課程を検討し、一部変更した。 [B]</p>	<p>① 科目選択のしおりの活用など、進路志望と生徒個々の実態を踏まえ、科目選択がスムーズに行われるよう各年次進路探究課と協力していく。 ② 生徒の成績と学習時間について、個人ごとに見るとともに、年次傾向を分析し、適時の指導を教員全体で共有していく。また、学校評価アンケート（生徒）によるとプラス評価の昨年度比、家庭学習 38%→36%、読書週間以外での読書 41%→34%とやや下降。朝読書を朝活に変え、読書以外の活動もできるようにしたことによる影響もあると思われるが、推移をみていきたい。 ③ 「高校生のための学びの基礎診断」後の生徒の学習の改善を、強化してはならない。授業との関連や、外部模擬試験とのすみわけ等、効果的な活用を引き続き検討、実施していく。 ④ 学校生活の中での授業の重要性、進路志望に応じた+αの必要性を、進路探究課と年次と足並みそろえて、計画的に指導と評価をしていかなくてはならない。</p>

<p>(2) ICT の利活用による魅力ある授業づくり（個別最適な学びと協働的な学び）を推進する。</p>	<p>①学習支援システム（スタディーサプリ、AI 学習システム）を活用した個別最適な学びについて研究する。</p> <p>②ICT の活用、協働的な学習に関する事例を共有する。</p>	<p>①学習支援システムの利活用について、各教科、各年次、各課とも連携し、様々な場面を通して推進する。</p> <p>②校内における ICT の効果的な利活用や協働的な学習に関する実践について事例を共有する。また、学校評価アンケートにおいて ICT に係るプラスの評価 80%以上を目指す。</p>	<p>①各年次と教職員のクラスルームを開設し、様々な連絡等に活用している。スタディーサプリについても、活用が進んできている。AI 学習システム (LEAF) についての職員研修会、研究授業を実施した。</p> <p>②授業研究週間に計画されていた研究授業は 2、3 年次の年次閉鎖に伴い実施できなかった教科もあり、残念であった。また、授業公開は 1 年次のみとなったが、来校くださった方々の評価は好評であった。</p> <p>学校評価のアンケート結果は 84%であった。(前年度 74%)</p> <p style="text-align: right;">【A】</p>	<p>① 学習支援システムの利活用については、教員と生徒の双方で、よりよい活用の仕方を模索して、過負担にならずして、効果を得られるよう、工夫をしながらの推進をしていく。</p> <p>② 次年度も授業研究週間の有効的活用を推進し、教科内や教科を超えた実践を参観したり、研究したりできるように呼び掛けていく。</p>
<p>(3) 読書活動を通じて、視野を広げ社会の一員として学ぶ姿勢の育成を図る。</p>	<p>①朝の読書の指導計画や指導体制を学校全体で共有する。</p> <p>②図書委員の主体的な活動の場を積極的に設けるとともに、図書委員を通じて図書館利用を促進する。</p>	<p>①朝の読書も含めて年間 10 冊以上を読破するよう指導する。</p> <p>②学校評価アンケートにおいて図書館に係るプラスの評価 70%以上を目指す。</p>	<p>① 12 月時点の読書冊数平均は 6.4 冊で、昨年度の最終結果 6.9 冊に比べても好調だが、1 年次生の頑張りが全体の 45%を占めており、2・3 年次生については昨年度を下回っている。委員の取り組みに一定の成果はありつつも、実態は、取り組み状況が良好な人がやっていない人の分を大幅にカバーしている状況である。</p> <p>②本の貸し出しの他に、生徒の学習の場として、環境整備に努めた。図書館に係る評価は 70%であった。(前年度 62%)</p> <p style="text-align: right;">【B】</p>	<p>①委員会の生徒の取り組みに一定の成果はありつつも、好調に見える全体の数字に隠れた実態があるので、生徒に情報を共有する際の見せ方(読書冊数の分布図など)を工夫したい。</p> <p>②授業で図書館を活用していただいたことが、高い評価につながったように思う。一方、朝読書が朝活に変わったことで、図書館から貸し出す冊数は前年度に比べて大幅に減った。学校の課題を図書委員とも共有し、より利用しやすい図書館を目指して改善していきたい。</p>

2 キャリア教育の推進（進路探究課）

十分に達成した (A) やや達成した (B) 少々達成できなかった (C) 達成できなかった (D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
<p>(1) 進学・就職それぞれにおいて、より効果的に3年間一貫した指導を推進する。</p>	<p>①学びの基礎診断等の結果から配信できる運動課題を活用し、各年次で弱点の補強や基礎学力の向上に向かわせる。3年次生の個別指導については、全職員体制とする。</p> <p>②キャリア教育の一環として、外部講師も活用した親子進路説明会および生徒向けのガイダンスを適切な時期に実施する。</p> <p>③SSP（本校オリジナル手帳）の活用を促し、生徒の自主的な進路活動に繋げる。</p>	<p>①各年次からスタディサプリ運動課題を配信し取り混ぜることによって、基礎力に変化が見られたか。3年次生徒の指導状況について職員間で情報共有できたか。</p> <p>②進路ガイダンスの事後アンケートで有効性を評価する。</p> <p>③生徒が記入し活用しているか。</p>	<p>①4・8月の結果から、1, 2年次で運動課題の配信を実施した。サプリ導入2年目、日常的にも長期休暇課題としても活用状況良好。3年次生徒の個別指導に対する先生方の協力に感謝。</p> <p>②進路説明会等に対するプラス評価は生徒92%（昨年度比+3）、保護者91%（昨年度比±0）</p> <p>③ 年度当初 SSP 取り組み強化月間を教務情報課主導で設定して、毎朝取り混ぜることができたが、後期の指導が手薄になった。</p> <p style="text-align: right;">【B】</p>	<p>①継続して導入するが、生徒の基礎力に変化が見られたのかは不明。1年次における科目選択の指標としては役立たなかった。3年目にあたり教師と生徒に対する調査が必要か。</p> <p>3年次生に対する指導について、先生方のご協力・ご尽力には改めて感謝。</p> <p>②平日午後開催を原則とするが、詳細は各年次と相談して計画する。</p> <p>③朝活動の時間を利用し、SSPを主体的に日常の中で活用する生徒の育成にむけた実践方法検討（朝活教務・進路・授業担当・担任・顧問）</p>
<p>(2) 第一志望達成に向けた進学指導ならびに、民間就職・公務員指導を円滑に進める。</p>	<p>①生徒の特長を生かして希望達成に向かわせる。教科担当者は個々の進路希望を把握して指導する。1年次後期から四年制大学希望者への早期指導を実施する。特に2年次後半からは、年次と連携してK&Mチーム（国公立大学志望者・医療看護系進学希望者へのグループ指導）を行う。</p> <p>②1年次後期から3年次まで継続して、外部講師を招聘した公務員講習や就職ガイダンスを行い、生徒の意識高揚を図る。3年次民間就職は希望職種に応じた事業所の情報を共有し、適切に受験先を決定させる。</p>	<p>①K&Mチームを効果や継続性を重視し、年次、教科と検討しながら実施できたか。</p> <p>第一志望合格率80%以上が達成できたか。</p> <p>②就職内定100%、公務員試験合格率70%以上が達成できたか。</p> <p>・受験結果に応じて適切な事後指導ができたか。</p>	<p>①チームというよりは、大学・公立短大・看護専門学校希望者全体に3年次主導で指導した。2年次も年次主導で国公立大希望者に絞って指導を開始。進学希望者第一志望合格率98.6%</p> <p>②民間就職希望者へ計4回のセミナーを実施、「Handy 進路指導室」は活用3年目。外部講師を招いた模擬面接は8月には公務員志望者も加えて実施した。年次団が中心となり粘り強く公務員二次対策を行った。民間就職第一希望内定率82.4%、公務員試験合格率82.4%。「進路のてびき」「受験報告書」「進路だより」等に対するプラス評価は生徒95%、保護者87%</p> <p style="text-align: right;">【B】</p>	<p>①スタディサプリは、基礎固めとして年次や教科担当から利用を促す。到達度テストとの運動課題を週1回配信して取り混ぜる（1, 2年次継続）。3年次は生徒個々のペースで。進路でもアプローチの方法を模索する。 (各年次・進路)</p> <p>②公務員二次出願エントリーシート作成や面接作文指導についても、民間就職希望者の個別指導をお願いするのと同じタイミングで先生方の割り当てをお願いしたい。公務員試験で不合格となった生徒のうち、民間就職を希望している生徒は受験準備中。 (3年次、進路)</p>

<p>(3) 「産人および総合的な探究の時間」を核とした、3年間の体系的な探究学習を推進する。</p>	<p>①「TONARI サポーター」とのつながりを継続し、3年間を見通した探究型学習「TONARI プロジェクト」(始動4年目)を進める。2、3年次では地域の課題に目を向け、生徒自身にできることを考えさせる。</p> <p>②生徒自身が自己の成長を実感できるような「探究テーマ」を設定し、進路達成に役立てられるものとなるよう年次のサポートを行う。</p>	<p>①講師の手配や必要に応じた外部との連携など、活動のサポートを行うことで各年次の探究活動が円滑に進んだか。</p> <p>②生徒の希望する進路が達成できたか。</p>	<p>①2年次は9月4日に中間発表会を実施。教務情報科から夏期読書課題(選択制)が導入され、夏季休業中の活動が活発になり、外部活動による公欠が減った。3年次の発表会は進路内定状況に応じて実施。現在も1、2年次生は個別課題解決に向けて概ね積極的に探究している。1年次は年次独自でも探究活動を推進していた。</p> <p>②探究ノート(年間)を導入した。「課題設定」の指導に時間をかけた。進路希望が明確な生徒は探究テーマの設定も進路に関連している。上野千鶴子ゼミ参加生徒は2年次1名。</p> <p style="text-align: center;">【B】</p>	<p>①②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究ノートの継続 ・積極的な外部活動奨励(手続き簡略化も継続) ・先生方の研修や、探究コンテスト等についての情報提供を継続(進路) <p>・校外の探究コンテスト等にエントリーし、生徒が活躍できる場を拡大していく。</p>
---	---	---	--	---

3 生徒指導及び特別活動の充実・強化（生徒保健課）

十分に達成した (A) やや達成した (B) 少々達成できなかった (C) 達成できなかった (D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取り組み状況および目標の達成状況	次年度に向けた改善策
<p>(1) 生徒自らが企画し、主体的に参加・運営する生徒会活動・特別活動を推進する。</p>	<p>①生徒一人一人に自己指導能力を身に付けさせる。 ②生徒会を中心にあいさつ運動を推進する。 ③各種委員会の自主的活動を推進する。 ④地域貢献活動に積極的な参画を促す。 ⑤部活動の主体的な活動、参加を促す。 ⑥多様化する社会の中で生徒の自発的な要望、活動を支援する。</p>	<p>①学校教育評価アンケートで評価する。(生徒) ②あいさつ運動への参加回数等で評価する。 ③生徒会活動・行事等への参加に関する生徒のSSP等への記入状況・内容により評価する。 ④ボランティア活動への参加回数等で評価する。 ⑤部活動の加入率と大会成績等で評価する。 ⑥生徒からの要望等に対し、生徒・教員による対話や議論がなされたか学校教育評価アンケートで評価する。(生徒)</p>	<p>①自ら考え行動する生徒が少数ではあるが見受けられる。 ②生活委員長、副委員長を中心にあいさつ運動を企画・運営した。 ③行事等への取り組みは計画通り実施できた。生徒の主体的な取り組みについては、各委員会で差があり全体の取り組みに至っていないところもある。 ④ボランティアへの参加回数は1年49回・2年63回・3年29回の参加状況である。(R6: 1年24回・2年112回・3年86回) 1人1回参加率は42.86%であった。 ⑤部活動任意加入2年目となったが88.1% (92.7%) の生徒が部活動に加入した。加入状況はある程度達成できている。 ⑥昨年度、生徒から要望が多かったアルバイトについて規定を見直し実践している。 【B】</p>	<p>①②③ 概ね達成できた項目はあるが、なお一層生徒の主体的活動となるよう指導する。 ④生徒会中心にボランティア活動の意義を生徒に浸透させるとともに呼びかけを強化する。 ⑤生徒に目的、目標を持たせ主体的に取り組めるよう指導する。 ⑥前期執行部、後期執行部と連携し、なお一層生徒の意見を尊重しながら指導にあたる。</p>
<p>(2) 心身ともに健康的で規律ある学校生活を確立する。</p>	<p>①基本的な生活習慣を身に付けさせるため、家庭と協働して指導することで生徒自らが行動できる能力・態度を養う。 ②スクールカウンセラーによる健康相談を充実させる。 ③健康診断や各種検査の事後指導の徹底を図る。 ④定期的な身だしなみ点検を行</p>	<p>①欠席、遅刻、早退の回数等で評価する。 ②健康相談を年間18回以上実施できたかで評価する。 ③健康診断後の精密検査受診率が向上しているかどうかで評価する。</p>	<p>①昨年度と比較し遅刻する生徒が圧倒的に少ないが、特定の生徒が繰り返している現状である。 ②日程の都合で17回の実施となったが、概ね予定通り実施できた。 ③内科的疾患の精密検査は、概ね順調に報告がなされている。 ④身だしなみ点検再検査数は7回合計で延べ182名(男子6名)であ</p>	<p>①家庭と年次で連携を密にし、生活習慣を指導するとともに規範意識を持たせるよう指導する。 ②調整しながら継続して実施する。 ③精検受診勧告書を再度配布したり個別指導を通して徹底を図る。</p>

	<p>い、清潔感ある服装となるよう指導する。</p> <p>⑤携帯電話等の使用ルール・時間の遵守できるよう啓発活動・管理指導を行う。</p>	<p>④身だしなみ点検の実施状況と個別に指導を受けた生徒者数により評価する。</p> <p>⑤生徒・教員による啓発活動の実施状況と生徒の意識や実態の把握に務める。学校評価アンケートも活用する。(生徒)</p>	<p>った。(R6:合計136名、男子は延べ14名、女子は延べ122名)内容は化粧、ピアス、髪の色等が多く女子生徒への継続的な指導が必要である。</p> <p>⑤携帯電話等の校内での利用時間については概ね守られている。</p> <p style="text-align: right;">【B】</p>	<p>④身だしなみ点検は必要だが、普段の生活における身だしなみの指導について学校全体で共通理解のもと指導していく。</p> <p>⑤重点的な指導期間を設けて指導する。</p>
<p>(3) 個に応じたきめ細かい生徒指導・支援体制を確立する。</p>	<p>①生徒指導上の問題の共有化を図り、年次やヘルスサポート委員会、いじめ防止対策委員会等と連携・協働しチーム支援による組織的対応をしていく。(バッテリーM2の活用)</p> <p>②生徒の安全・安心を確保できる生活環境と生徒間トラブルの未然防止に努める。</p>	<p>①生徒指導上の問題等に対して、情報の共有、連携・協働した校内連携型支援チームによる対応ができたか評価する。</p> <p>②いじめアンケート調査や問題行動数の把握等から評価する。</p>	<p>① 各年次における問題点等については、生徒保健課と年次で情報の共有化を図りながら進めることができている。</p> <p>②いじめアンケートやスクールサイン等からいくつかの生徒間トラブルが発生しているが、重大事案はない。また、原因の究明と共有化を図りながら進めている。</p> <p style="text-align: right;">【B】</p>	<p>①②</p> <p>いじめを許さない雰囲気づくりに努め、いじめの対応にあたっては、より一層の組織的対応ができるよう、共通理解のもとに取り組みを進めていく。また、共感的な人間関係の育成に努める。更にSNSの利用について機会を見て啓発活動を実施する。</p>
<p>(4) 安全に対する意識の高揚を図る。</p>	<p>①交通ルール・マナーの遵守、自転車走行上注意等に関する効果的な安全教育・安全管理により生徒の安全を確保する。</p> <p>②家庭・地域との協力により登下校時の生徒の安全の確保に努める。</p> <p>③交通安全委員等の恒常的な自主的活動を促す。</p>	<p>①事故件数・苦情件数等の前年・全前年度度の比較や安全管理に関する各種取組の充実度で評価する。</p> <p>②学校評価アンケート(生徒)・(保護者)で評価する。</p> <p>③交通安全街頭指導や交通安全委員会の活動回数等により評価する。</p>	<p>①1月14日現在、交通事故は5件いずれも自転車乗車時であった。(R6:7件)いのちを守る観点から交通安全指導について機会を捉えて行った。</p> <p>②働き方改革の方針を踏まえ、外部との関係やの在り方については検討を深めている。</p> <p>③生徒の自主的な活動は安全面の確保という観点から難しい。</p> <p style="text-align: right;">【B】</p>	<p>①今後も機会を捉えて交通ルール・マナー遵守等に対する啓発活動を行っていく。</p> <p>②PTAとも協力しながら、交通安全に対する意識の高揚を図っていく。</p> <p>③安全面を考慮しながら交通安全委員会を中心とした生徒の活動も積極的に推進していく。</p>

4 安全・安心な学習環境の整備（総務広報課）

十分に達成した (A) やや達成した (B) 少々達成できなかった (C) 達成できなかった (D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 安全点検を実効あるものにし、安全・安心な学習環境を整備する。	① 月1回の安全点検の結果を、校内グループウェアなどを活用して全職員で共有し、学習環境の整備に努める。	① 安全点検の確実な実施と公表、点検で確認された異常箇所の修理・修繕等の状況により評価する。	① 月に一度の安全点検の実施と結果の共有を、確実に行うことができた。修理・修繕も、事務部の協力によりスムーズであった。 【B】	① 今後も安全点検を確実に実施することで、学習環境整備への意識を高め、安心な学校生活を送れるよう心がけていく。また、修理・修繕に関わって、事務部との連携をより密にしていく。
(2) 防災及び情報セキュリティについて、一人ひとりの危機管理意識を高める。	① 年2回の防災訓練のうち1回は「シナリオ提示型」、もう1回は「抜き打ち」訓練を行い、より実効あるものにする。 ② 情報セキュリティの強化を図るための情報提供及び職員研修を行い、問題発生皆無を目指す。	① 危機管理委員会を開催し、防災訓練の成果と課題を検討する。また、学校評価アンケート（生徒）で防災訓練の成果を測る。 ② 情報セキュリティに関する問題発生状況及びその対応で評価する。	① 6月に「シナリオ提示型」の防災訓練、10月に「抜き打ち型」の防災訓練を実施した。消防署職員の来校のもと、消火訓練を実施し、生徒の防災意識を向上させることができた。危機管理委員会では、職員の防災組織の確認ができた。 ② 情報セキュリティに関する問題については特に問題はない。 【B】	① 生徒が職員の誘導なしで、避難訓練をするとともに、職員の役割を再度確認することにより、防災意識を更に向上させたい。 ② 『緊急時対応マニュアル』の点検・改定の際に、情報に関する危機管理また犯行予告に関する掲載を検討する。
(3) 安全に対する意識の高揚を図る。	① 各PTA専門部、生徒保健部と協力しながら、校内行事等における安全指導を徹底する。	① 安全指導の状況及びその対応や学校評価アンケート（生徒）等で安全に対する意識が高まったか評価する。	① 天童夏まつりで PTA 総務部保健体育部と協力しながら安全・安心に活動することができた。 【B】	① 今後も各 PTA 専門部と共に校内行事等を安全、安心に実施し、生徒自身の安全に対する意識、さらに災害に対する危機管理意識をも高めたい。

5 家庭や地域との連携強化と情報発信（総務広報課）

十分に達成した (A) やや達成した (B) 少々達成できなかった (C) 達成できなかった (D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 校外の様々な地域ボランティア活動を通じて、「地域に貢献し、地域と共に歩む心」など、社会に貢献する力を育てる。	① 全校で1人1ボランティアの活動を推進し、地域貢献活動を行う。特に、天童市で開催される「天童桜まつり」「天童夏まつり」に積極的に参加する。	① 生徒のボランティアの総数で評価する。(1人平均1回以上を目指す。) ② 学校評価アンケート(生徒)(保護者)により、ボランティア活動・地域貢献活動の成果を測る。	① 「天童桜まつり-人間将棋」に2年次23名参加、「花笠おどりパレード」に1年次27名、ボランティアとして2年次5名が参加し、天童神輿祭りに生徒会から11名が参加。 ② 生徒は72%評価プラス評価、保護者は93%プラス評価となった。 【B】	① ボランティアの募集数は増加傾向にある。今後もボランティア活動の情報提供をすることで、生徒の地域貢献意識をさらに向上させていかなければならない。必要に応じて、生徒保健部との連携・協力を行っていく。 ② ボランティア活動は推進継続していきたい。
(2) 保護者等と連携し、学校行事やPTA諸行事を円滑に実施する。	① PTA諸行事の出席率60%以上を目指す。 ②学級減に伴い、PTA諸活動をスリム化する。評議員の人数を各クラス3名とする。	① PTA諸活動の参加率により評価する。 ② 各専門部の役員の意見を集約し、対応することで評価する。	(ア) 第1回PTA評議員会(4月)のでは1年生9/9、2年生7/9、3年生7/10で参加率は82%でした。天童夏まつにはPTA総務部の役員6名の方がお手伝いとして参加してくれた。 ② 今年度からPTA総会を紙面開催で実施した。今年度PTAの会計予算を見直して特別会計の予算化を実施し主に熱中症対策など効果的に活用することができた。 【B】	(ア) PTA専門部員が様々な活動に、積極的に参加していただいている。今後も、マナーアップ運動、PTAだより編集など、早めに案内し、参加しやすい状況づくりをしたい。 (イ) PTA総会を今年度紙面開催し特に大きな問題はなかった。継続していきたい。PTA特別予算を計画し、ウォータースタンドなどを設置することができた。
(3) 生徒の活動をはじめ、学校の教育活動に関する情報を積極的に発信する。	① 興味深く魅力的なホームページを目指して、適切かつ積極的な更新を心がけ、生徒・学校の活動が見えるような情報発信に努める。 ② ホームページ年間運用計画を作成し、全職員が一人1回以上、かつ年間総更新数50回以上を目指す。	① 学校評価アンケート(保護者)でホームページの情報発信について評価する。 ② 計画に従って1人1回以上更新し、年間50回以上の更新を行ったかで判断する。	①ホームページの更新内容は適切で生徒の活動が見える発信も多数あった。ホームページ年間運用計画に基づく更新について、担当者への連絡はしているが、更新できない部分もあった12月までの更新状況は、更新26/39計画であった。年間計画以外の更新が22件あり、12月合計48件の更新があった。 【B】	① ②更新担当者への確実な連絡と、必要に応じて更新方法の説明も行い、更新率を上げていきたい。 また、更新ができていない部活動等があり、中学生や保護者等がよく閲覧する所でもあるため、更新を声がけし、促したい。年間計画にない、授業・部活動など生徒の活動が見える情報についても、ぜひ更新をお願いしたい。